

【小特集】芥川龍之介と両国

行吉 正一

神田由美子

寫田 明子

安藤 公美

五島 慶一

はじめに

東京都江戸東京博物館都市歴史研究室は、2007年度（平成19年度）より、年間特定研究「隅田川流域の歴史と文化」を開始した。その一環として、2010年（平成22）3月に、シンポジウム「両国地域を考える」を開催し、翌年の2011年（平成23）3月には、その報告と他の論考も加えた「東京都江戸東京博物館調査報告書第24集 両国地域の歴史と文化」を刊行した。

その中で、当館の学芸員、行吉正一は、「芥川龍之介の両国」を執筆し、芥川龍之介が18歳までを育った両国が、芥川龍之介文学にいかなる影響を与えたか、芥川龍之介が両国をいかに描いたかを考察した。ただ、この論考では、芥川龍之介と両国の関係を概観することはできたが、さらに、芥川龍之介と両国との関係を考察する必要性が残り、2012年（平成24）2月から3月にかけて、芥川龍之介研究者4名を招き、当館での教育普及事業「えどはくカルチャー」において、「連続講座 芥川龍之介と両国」を開催した。

この連続講座においては、それぞれの研究者によって芥川龍之介と両国との関係が言及され、芥川龍之介研究にとっても、また、両国研究にとっても有意義な講座となった。

ここでは、その連続講座での発表者に、それぞれの講演についてまとめていただき、「連続講座 芥川龍之介と両国」での成果を広く公開し、芥川龍之介にとって両国がいかなる意味をもったのかを検証してゆく。

なお、「連続講座 芥川龍之介と両国」は以下の通りである。

1. 2012年2月9日（木） 14：00～15：30
「芥川龍之介文学の揺籃^{ゆりかご}としての両国 —芥川の怪奇文学—」
（行吉正一・東京都江戸東京博物館学芸員）
2. 2012年2月16日（木） 14：00～15：30
「芥川龍之介「開化の良人」に描かれた両国 —大川の赤い月—」
神田由美子（東洋学園大学教授）
3. 2012年2月23日（木） 14：00～15：30
「小説の舞台としての両国 —芥川作品の怪奇から狂気へ—」
畷田明子（田園調布学園大学非常勤講師）
4. 2012年3月15日（木） 14：00～15：30
「自画像の背景としての両国 —記憶の現場—」
安藤公美（青山学院女子短期大学非常勤講師）
5. 2012年3月22日（木） 14：00～15：30
「関東大震災 —芥川龍之介と東京・両国—」
五島慶一（熊本県立大学准教授）